

Q

こどもがかつとなりやすく、物を壊したり、人に手をあげたりしてしまいます。どうしたらよいでしょう。

A 低中学年

物を壊したり、人に手をあげたりすることは相手を傷つけることになるので、時には叱って正しいルールや傷つけたことについて謝るということを教えることはとても大切です。ただ、それだけでは、改善されないことがあります。

その場合には、まず、お子さんの気持ちを理解する必要があります。本人なりに、かつとなってしまった理由があります。ただし、この時、怒りながら話を聞いても、本当の気持ちを話す気にならないものです。落ち着いて冷静に話をしましょう。また、上手に言えなさそうな場合は、「本当は〇〇したかったの？」「〇〇されそうで嫌だったの？」「本当は一緒にやりたかったの？」「嫌なこと言われそうで嫌だったの？」などと聞いてみるのもよいです。何かしらの不安を上手に口に出せなかったり、感情や行動をうまくコントロールできなかったりしていることが多いです。

その不安が出た時の正しい対処の仕方について具体的に教えるとよいです。例えば、こういうときは、先生に「〇〇」と伝える、イライラしたら、先生に一言言ってから〇〇（自分の落ち着く場所）に行く等が考えられます。

これらについては、学校の先生ともよく相談をして、学校でできることと保護者ができることを出し合いながら、同じ方向で支援していくのがよいです。そして、こまめに学校での様子について聞いて、できたことやがんばったことについて褒めましょう。

また、よくかつとなる場合、学校でも先生や友だちから注意されることも多く、そのことによって本人が自信を失っていることも考えられます。相手が傷つかないようにするために仕方がない部分もあります。ただ、お子さんはかつとなっていない時間もあるはずで、その部分も含めてお子さんなので、よい部分は積極的にポジティブな言葉かけをしてください。

なかなか状態が改善されない場合は、発達上の特性が強く出ていることも考えられますので、医療機関や教育センター等相談機関に相談することをお勧めします。また、放課後等デイサービスで感情や行動のコントロールについて学ぶというのもよいでしょう。

A 思春期

思春期のこどもはちょっとした保護者からの一言に過剰に反応します。気持ち的には、「分かっているのにいちいちうるさい。」といったところです。物を壊したり、人を傷つけたりすることは、年齢的に犯罪となってしまうことがありますので、時には叱りながら伝えることは必要なのですが、正論だけではなかなか話が入っていきません。

家庭では、日頃からこどもと十分にコミュニケーションが取れる関係性を築いておくことが重要です。その場しのぎの対応ではうまくいきません。コミュニケーションとして、朝や出かける時、帰ってきた時などの挨拶は重要です。そこから、会話が広がっていくこともあります。

そして、お子さんの気持ちを理解しようとするのが大切です。理由なくかっとなる人はいません。必ずその子なりの理由があります。そしてその裏には何かしらの不安や恐れがあります。

なかなか話さない場合は、お子さんがどの言葉や状況でかっとしてしまうか、分析してみるとよいでしょう。そうすることでお子さんのスイッチがどこにあるのかわかるかもしれません。

学校の先生にも、よく相談をしてください。

ただし、頻繁に人に手をあげてしまうような場合は、自制がきかない状態にあります。医療機関や相談機関に相談することをお勧めします。

コラム

「自閉スペクトラム症（ASD）」

臨機応変な人間関係が苦手であったり、こだわりが強かったりして、生活に支障が出ている場合、医療機関で「自閉症スペクトラム障害」と診断されることがあります。自閉症スペクトラム障害とは、「①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする発達の障害」です。

この場合、お子さんの特性にあった支援の仕方を行うことで、学校生活に適応しやすくなります。医療機関や相談機関に早めに相談するとともに、学校の先生とも連携を図りながら、環境の調整を進めていくことが大切です。

